東日本大震災に伴う対応について

本年3月11日に発生しました東日本大震災により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災されたみなさまには心よりお見舞い申し上げます。弊社におきましても、多くの販売・サービス拠点において営業に支障が生じ、またサプライチェーンの停滞などに伴い、車両生産にも大きな遅れが発生し、お客様には多大な御迷惑をお掛け致しました。
三菱ふそうでは、万全な製品供給とアフターサービスを1日も早くお客様に提供できるよう、会社全体で努力してまいりました。

ダイムラーの一員として

今回の東日本大震災に際し、ダイムラー AG（以下ダイムラー）では、被害地域に初動支援として200万ユーロ（約2億3,000万円）の寄付を行なうとともに、被災地の復興を支援するため、50台の車両、総額400万ユーロ相当（約4億8,000万円）を寄付しました。
災害対応にダイムラーの輸送力・走破力の高い製品を役立て頂くため、日本国内より三菱ふそうの小型トラック「キャンター」を30台提供したほか、メルセデス・ベンツのオフロードトラック「ゼトロス」8台、多目的作業車「ウニモグ」4台、オフロード車「Gクラス」8台をドイツより輸送し、提供しました。
ダイムラーの一員として三菱ふそうは、小型トラック「キャンター」をはじめ、ドイツより輸送された「ゼトロス」・「ウニモグ」についても被災地域でフル活用できるよう、サポートしております。

引渡しを待つ「キャンター」

被災地で活躍する「ゼトロス」

震災直後の対応

震災直後、大津波の甚大な被害が出た宮城県石巻市に位置する弊社の石巻支店では、弊社の社員以外に、多くの地域住民の方々も避難生活を余儀なくされました。これらの方々の援助として、弊社川崎製作所よりトラック2台を社員4名が交代で運転し、食料・水などの救援物資を届けました。またこのほかにも多くの支援物資を被災地域に送り届けました。
一方、栃木県さくら市にある弊社の喜連川研究所では、震災後の燃料不足に伴い、栃木県保健福祉部の要請を受け、病院関係者の通勤用燃料および病院の自家発電用燃料としてガソリンおよび軽油の提供を行ないました。

お客様へのフルサポートのために

三菱ふそうでは、被災地域での迅速かつ的確なお客様のサポートのため、多くの応援要員を社内各部署より震災地域に派遣し、サービス体制のフォローに努めるとともに、休業を余儀なくされた支店においても、1日も早い操業再開を目指してクリーンアップ作業などを実施しました。また現地で車両の被害に遭われたお客様の要望に応えるため、車両修理用部品の確保などにも全社的に取り組みました。
特に、仙台空港の近くにある仙南支店では、大津波により再開不可能と思われる程の甚大な被害を受けました。
しかし、現地スタッフの不屈の努力、応援要員による支援の甲斐もあり、去る2011年9月3日、約半年ぶりに復旧し、営業を再開しました。

2011年9月3日の仙南支店
元通りに復旧された修理工場

その他対応

夏場の電力供給不足に対応するため、自動車工業会による業界方針に従い、弊社では製作所など生産部門を中心に休日を「土・日曜日」より「木・金曜日」へ移行しました。また、本社オフィスではサマータイムを実施したほか、全社で節電および電力消費のピークカットへの協力に取り組みました。